

# 春闘を職場から盛り上げよう! 春闘標語10選を決定

## 2016春闘標語 10選

取り戻せ!ベアを笑顔で!いざ団結!!春闘は明日を照らす道しるべ!  
(北海道地本) 工藤英之  
みんなで闘い!みんなで勝ち取る!16春闘!(関東地本) 関俊一郎  
なくせ貧困!許すな格差!勝ち取れ大幅賃上げを!!  
(関西地本) 森田祐稀  
深めよう絆!勝ち取ろうベースアップ!(九州地本) 白川幸治  
咲かせようベアの花!勝ち取ろう満額獲得!(東北地本) 佐藤久徳  
高めよう組織の力!守ろう仲間職場!(東北地本) 橋本祐太  
知恵出せ!声出せ!元氣出せ!皆で協力!一致団結2016春闘!  
(東海地本) 古橋知明  
格差をなくせ!みんなで勝ち取る16春闘!(関東地本) 山越一幸  
雇用と生活を守る為、強い絆で一致団結!(北海道地本) 長谷川泰子  
今こそ立ち上がろう!一致団結16春闘!(東海地本) 伊藤薫

# 第18回全国スノーフェスティバル開催!



2016年2月21日~23日 乗鞍高原

のために乗鞍の地まで足を運んでくれました。国会において貨物に対するモータリシフト実現に向けた助成を含んだ法律案づくりが進展していることが報告されました。

スキーを通して組合員とひびき交え、身並なたしらかおる」を感じるとても良い交流の場となりました。

大会開催にあたっては、地元の人々が「100年ぶり」というほどの暖冬による危機的降雪不足によって大会コースの設置が危ぶまれていたが、大会コースの変更、また変更という形をとるなら準備委員とスキー場スタッフが苦勞をしながら無事に開催する事ができました。

- 【大回転】
- スノーボードピナー・ショートスキー他
    - 1位 園上 哲也 組合員友人
    - 2位 辻 祥公 稲沢機関区
    - 3位 今瀬 拓哉 稲沢駅
  - スノーボードエキスパート
    - 1位 伊藤 俊和 稲沢駅
    - 2位 渋谷 純一郎 富山機関区
    - 3位 五十嵐 紀龍 吹田機関区
  - スキーピナー
    - 1位 小林 洋平 新潟貨物支
  - スキーアドバンス
    - 1位 西崎 俊明 札幌機関区
    - 2位 田川 延之 岡山機関区
    - 3位 加持 豊 五條駅機関区OB
  - スキーエキスパート
    - 1位 多胡 裕樹 高崎機関区
    - 2位 土師 朋喜 富山機関区
    - 3位 藤井 靖且 岡山機関区
- 【デュアルスラローム受賞者】
- スノーボードピナー・ショートスキー他
    - 1位 武藤 総裕 愛知機関区
    - 2位 新川真太郎 愛知機関区
    - 3位 川畑 旭 稲沢機関区
  - スノーボードエキスパート
    - 1位 多胡 裕樹 高崎機関区
    - 2位 楠田 良 吹田機関区
    - 3位 伊藤 俊和 稲沢駅
  - スキーピナー
    - 1位 小林 洋平 新潟貨物支
  - スキーアドバンス
    - 1位 加持 豊 OB
    - 2位 田川 延之 岡山機関区
    - 3位 西崎 俊明 札幌機関区
  - スキーエキスパート
    - 1位 前田 春生 OB
    - 2位 石田 聡 富山機関区
    - 3位 土師 朋喜 富山機関区

# JR総連2016春闘セミナー

JR総連2016春闘セミナーが2月19日に都内で開催され、総勢100名が参加しました。物労組と貨物労連から

15名が参加しました。連合の須田総合労働局長から「2016春闘生活闘争方針の特徴点について」を講演を受け、連合の春闘方針について分かりやすく提起されました。

決意表明では、貨物労連を代表して辻井事務局長(神奈川県海鉄道労組委員長)から「貨物労連として連帯連携を強化し、各単組のヤマ場の交渉時期に激励行動を行い各単組の交渉を後押ししていく。JR総連春闘を貨物労連がけん



# 東日本大震災から5年



2011年3月11日14時46分、マグニチュード9.0の地震が東北地方を中心に東日本を襲いました。この地震により発生した津波により多くの命が失われ、死者・行方不明者は

1万8000名を超え、JR貨物の関連会社社員の方も犠牲になりました。当時併せて福島原発事故が発生し、現在でも18人以上が住み慣れた土地を離れ、避難生活を送っています。



たしる議員と共に走行を実現した石油輸送列車

中央本部は震災直後と同日14日に「東北地方太平洋沖地震対策本部」を設置しました。対策本部からの呼びかけもあり、震災直後の現地に、被災者の食料不足を補うため、灯油などが全国の仲間から支援されました。現地に届けられたのは、仙台臨海鉄道や右巻地区の津波による入換機関車の脱線や散乱したコンテナと貨車、瓦礫の山と化した構内を目の当たりにし、想像を絶する被害に愕然としました。この「石油輸送

あつから、現地在を慮する全国の仲間から物心両面の支援が東北地方に届き、東北地方の仲間にも運転した乗務員からの「あつから」という声がありました。

たしるかおる  
「石油列車」  
震災直後、現地では物資不足であり、特にガソリンが不足していました。トラック輸送は道路寸断の影響でできないことから、JR貨物労使は、鉄道を使った迂回輸送による石油輸送列車を計画しました。しかし、電力が制限されていたため、行が困難な状況におちっていました。そんな中たしるかおる参議院議員はJR貨物労組伊藤委員長(当時)と共に当時与党だった民主主義の震災対策本部に出向き、電力供給を求め交渉を行いました。その結果として、鉄道への電力は確保され、「石油輸送列車」の走行が実現し、石油が被災地に届けられました。後巻地区の津波による入換機関車の脱線や散乱したコンテナと貨車、瓦礫の山と化した構内を目の当たりにし、想像を絶する被害に愕然としました。この「石油輸送



津波により脱線した入換機関車